

新型コロナウイルス禍の福島市商工業の支援に対する緊急要望

新型コロナウイルス感染症の拡大による地域経済への影響は甚大であり、福島市においても計り知れない影響があらゆる分野に及んでいます。事業者は売上の大幅な減少などに直面し、事業の休廃業も検討せざるを得ない厳しい状況下でも雇用の維持に努めながら本市経済を支えています。

国による給付金やGo Toキャンペーンをはじめとした各種需要喚起策による効果が見られる中、事業者は新型コロナウイルス感染症の収束が見えないことに先行き不安を感じており、不安を払拭することが求められています。

一方で、福島市出身の作曲家・古関裕而先生・金子夫人をモデルとした連続テレビ小説「エール」の放映によって「古関裕而のまち・ふくしま」が全国的に周知され、今後も古関先生を活かしたまちづくりの推進が求められています。

中心市街地においては福島駅東口再開発事業の推進など今後のまちづくりに向けた大きなプロジェクトが動き出しており、まちなかの賑わい創出が大きな課題となっています。

感染拡大防止策と経済活動の両立を図りつつ、福島市が足腰の強い「健都ふくしま」を目指すために、福島商工会議所は地域経済の活性化のため現場主義に徹しながら事業展開を進めております。

つきましては、当面緊急を要する下記の項目について要望いたしますので、実現に向けてご高配いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた一層の取組みに向けて

福島県内各地で感染が拡大する中、福島市においては感染防止策の積極的な取り組みと医療関係者をはじめとした懸命な努力により感染拡大防止が図られていることに謝意を申し上げます。

今後も感染拡大防止と経済活動の両立を図るため、「新しい生活様式」に対応した感染防止策の徹底により市民の安心と安全が図られることを要望します。

2. 経営環境の変化に対応する強靱な中小企業づくりに向けて

新型コロナウイルスが事業者に与えた影響は極めて深刻であり、事業継続の意欲喪失につながれば、休廃業などを通じた地域経済へのダメージは計り知れません。

非常に厳しい状況下においても事業者が希望を失わずに経営に集中し、感染症や自然災害などの環境変化にも対応できる強靱な中小企業づくりに向けて、次の項目を要望します。

- ① 新型コロナウイルス対策として実施している中小企業支援事業が、感染症収束まで実施されるよう、国・県に対して要望を実施するとともに、市で実施している事業についても引き続き実施すること。
- ② 中小事業者が、消毒の実施や換気・ソーシャルディスタンスの順守、密集の回避など、「新しい生活様式」に取り組むための感染症対策を整備するための補助制度を創設すること。
- ③ 福島市と福島商工会議所が共同で策定する事業継続力強化計画に基づき、小規模事業者が事業継続力強化計画の策定を推進するための事業に対して支援すること。
- ④ 新型コロナウイルスの影響で売上が落ち込んでいる中小企業者が販売を目的とした展示会等へ出店する際の費用も補助対象として認めること。
- ⑤ 新規創業者が店舗やテナントとして入居する際の初期費用を含めた創業補助金を創設すること。
- ⑥ 事業承継に取り組む中小企業が、承継計画の策定などを行う際の補助制度を創設すること。
- ⑦ 「福島市中小企業振興条例」に則り、本市に拠点を置く中小企業への受注機会の確保を図ること。とりわけ、「風格ある県都を目指すまちづくり構想」に基づき今後、福島市役所西棟な

ど公共施設の戦略的な再編整備が図られることから、地元への発注や資材調達を推進すること。

3. 福島駅を中心とする中心市街地の活性化に向けて

福島駅前においては県都の商業の象徴だった中合福島店が令和2年8月に閉店し、来街者の減少などが懸念されています。

福島駅東口再開発事業の進展、令和3年4月の福島県立医科大学保健科学部の開設などを踏まえた福島市中心市街地活性化基本計画の3期計画の策定が予定されており、中心市街地のまちづくりにとって極めて重要な局面を迎えていることから次の項目を要望します。

- ① 福島駅東口再開発事業の進展に向けて積極的な支援を行うとともに、工事期間中の賑わい創出が課題となることから、駅前通りの歩行者天国の実施について支援すること。
- ② 市内の学生や若者がイベントを主催しやすいように貸出備品の充実を図るとともに、イベントに対する補助率や補助支援団体の拡充を検討すること。
- ③ 景観や防犯など課題が多い、老朽化した市営住宅の整備や空き家対策について、民間企業との連携により早急に施策を実施し、課題解決を図るとともにまちの賑わいに不可欠な居住環境整備の推進を図ること。

4. 県都の発展に資する地域開発の推進に向けて

東北中央自動車道の相馬～米沢間が令和2年度中に開通し、観光・経済両面での広域連携は一層重要となります。

県北地域の母都市として災害に強く、広域連携推進に必要な社会資本の整備が進展するよう次の項目を要望します。

- ① 東北中央自動車道霊山 IC と福島県立医科大学を結ぶ新たな国道 115 号線ルート of 整備は、県北地域のみならず相馬地区からの「命の道」として非常に重要であることから、その促進を図られるよう国・県に対し要望すること。
- ② 福島西道路の南伸および北伸の整備促進が図られるよう国、県に要望すること。
- ③ 東北中央自動車道における東北自動車道区間(福島 JCT・桑折 JCT 間)の無料化実現が図られるよう国、県、高速道路会社に要望すること。

5. 観光振興に向けて

連続テレビ小説「エール」の放映を契機とした「古関裕而のまち・ふくしま」の推進や、東京2020 オリンピックの野球・ソフトボール競技の開催は、福島市の元気を内外に発信するチャンスです。

こうした機会をとらえ、本市の魅力発信が世代を超えてつながるよう次の項目を要望します。

- ① 「古関裕而のまち・ふくしま」が世代を越えて推進されるよう、古関メロディが古関裕而ストリートなどで流れるようにしていただき、古関メロディを広く周知しながら観光客へのおもてなしや市民への浸透を図ること。
- ② 令和4年春のオープンを目指し福島大笹生 IC 周辺に整備が進められている「(仮称)道の駅ふくしま」の開業時に特産のフルーツを活かした商品などの販路拡大につながるよう商品開発などの支援を図ること。